

評価対象年度	平成 30 年度
1次評価日（主幹等）	31年 3月 31日
2次評価日（課長等）	31年 月 日

事務事業評価表（一般事業）

1 事業名	岡谷子ども未来塾	コード	103111
-------	----------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課	作成者
--------	--------	----------	-----

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	生涯学習の推進	施 策	社会教育の充実
		予算科目	岡谷子ども未来塾運営事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	あり
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	地域の教員OBや塾講師経験者などの支援による中学2年生を対象とした、放課後の学習支援		
目的	対象者	市内中学2年生	
	意 図	学習の定着	

5 事業の実施内容		*30年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
<p>中学2年生を対象とし、家庭事情、休みがちな生徒など、学校と連携して学習支援が必要な生徒を集め、個々の習熟度も考慮した少人数形式での学習支援を行った。講師は教職員OBや地域人材を公募し、教育委員会に配置される指導主事教員を中心に学校と地域が連携した指導体制とした。</p> <p>実施概要：各校20名程度を対象に6～10月の水曜日の放課後。 1回1教科／1.5時間、2教科（英語、数学）の補講を行う。</p>			
前年度の課題への対応	なし		

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	延べ開催回数			単位	回
	実績値			16	
	*指標の説明			市内4校の合計開催回数	
② 成果指標（指標名）	延べ参加児童数			単位	人
	目標値			320	
	実績値			325	
	達成度			101.6%	
	*指標の説明				
*目標値の設定方法の説明					

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	0	0	927,888	1,501,000
経常経費			927,888	1,501,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
② 人件費	0	0	1,600,000	1,600,000
正規職員の人数(人)			0.20	0.20
③ 合計コスト(①+②)	0	0	2,527,888	3,101,000
前年度比		-	-	122.7%
財源	0	0	2,179,888	2,459,000
一般財源				
内訳			348,000	642,000
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	-	-	157,993	
前年度比		-	-	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0
	割合	-	-	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	-	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	
成果指標の目標値 達成度	101.6%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 学習支援員の確保が大変である。 パソコンを使用した学習だけだと、生徒の集中力が続かない	
	改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 学校教員の紹介や、学童クラブ指導員などからも活用し、事業の周知を図りながら、地域の協力者を模索 パソコンだけでなく、支援員とのコミュニケーションを図りながら実施を試みる
改善開始時期		2019年度～

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による31年度の優先度 *H29年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	---	---